

大阪損保革新懇 第28回総会

11・27(木)
PM6:30~
エル・おおさか南ホール

一戦後80年の地平に立って

健全な日本社会と損保産業を展望する

記念講演

「ファシズムと排外主義」

『ファシズムの教室 なぜ集団は暴走するのか』著者

田野大輔さん
甲南大学文学部教授

たの だいすけ 1970年東京都生まれ

京都大学文学部卒業。ドイツ・ミュンヘン大学社会学部留学。京都大学博士（文学）

大阪経済大学准教授などを経て、2012年より甲南大学文学部教授

専門は歴史社会学、ドイツ現代史、ナチズム研究

おもな著書：『ファシズムの教室 なぜ集団は暴走するのか』（朝日文庫）

『魅惑する帝国—政治の美学化とナチズム』（名古屋大学出版会）

『愛と欲望のナチズム』（講談社学術文庫）

『検証 ナチスは「良いこと」もしたのか?』（共著、岩波ブックレット）

『<悪の凡庸さ>を問い合わせる』（共編著、大月書店）



参加協力費 1000円

エル・おおさか南ホール
(大阪府立労働センター 南館5階)
大阪市中央区北浜東3-14
地下鉄谷町線・京阪電鉄「天満橋」から西へ300m

[基調報告]
健全な損保産業の再生
を職場から考える

大阪損保革新懇世話人（東京海上日動火災勤務）

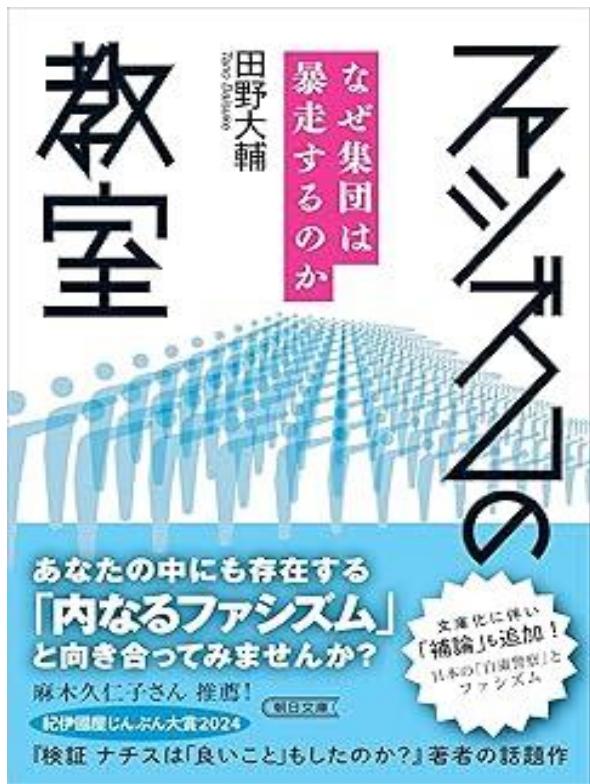
中村 啓子 さん



大阪損保革新懇

大阪市中央区瓦町1-7-1 エスペランサ瓦町ビル4階 電話：06-6232-1095

e-mail: ossnpksk@gmail.com HomePage: http://osakasompo.perma.jp/



ナチス・ドイツの大衆動員を追体験する授業を通じて、ファシズムの仕組みに迫る。ヘイトスピーチをはじめとする身近な問題にも焦点を当てた、現代社会と民主主義を再考するための必読書。「補論 日本の『自衛警察』とファシズム」も収録。

朝日文庫 240ページ 1045円(税込)

2025年4月7日発売

★ 推薦 ★

荻上チキさん（評論家）

それは、過去のものでも、他国の出来事でもない。

ユニークな実験の顛末が、あなたの日常に問いかける。——ファシズムは、つくれる。

その時あなたは、加担せずにいられるか。

岸政彦さん（社会学者）

ファシズムの快楽を通して人間の本質に迫る、「もっともエッジの効いた授業」の記録。

参議院選挙で吹き荒れた「排外主義」の言説は目に余るものがありました。とりわけ、候補者がマイクで「非国民」と叫ぶなどということはこれまで到底考えられないことでした。こうした状況は選挙後も続いています。デマに基づいた外国人攻撃、週刊新潮での作家・深沢潮さんへのヘイトコラム、兵庫県知事へ質問を行った記者を守れない時事通信社のありさま等々、枚挙にいとまがありません。

田野大輔さんは、上記の著書『ファシズムの教室』で、「トランプ現象からドイツの排外主義運動、さらには日本のヘイトデモにいたるまで、世界中でファシズムが再来しつつあると言ってもよいかもしれない」と述べておられます。ご指摘のとおり、社会の規範が壊れるのみならず、もの言えない社会が広く現出するのではないかと危惧しているところです。

損害保険業界も例外ではありません。カルテル、ビッグモーター事件など不祥事が相次ぎ、健全な業界の再生が喫緊の課題となっています。しかし、カルテルの再発防止策として各社が打ち出しているのは「他損保社員との接触禁止」など、社員に責めを負わせるものばかりです。また多くの大企業に共通するところですが、就業規則で施設内での政治や社会についての自由な議論が制限されています。本来自分の時間であるはずの昼休みについても例外ではありません。これらは明らかな憲法違反です。

今回の総会を機に、今日の状況を冷静に見極める目を養い、社会の閉塞状況を真に打開する明確な対抗軸を打ち立てるために、みなさんとともに奮闘したいと考えています。

大阪損保革新懇の三つの座標軸

- ① 損保は「平和産業」である
- ② 損保は国民生活に密着した「セーフティネット産業」である
- ③ 損保は「生きがい・働きがい産業」である

大阪損保革新懇

大阪市中央区瓦町1-7-1 エスペランサ瓦町ビル4階 電話: 06-6232-1095

e-mail: ossnpksk@gmail.com HomePage: <http://osakasompo.perma.jp/>